

カテイラン

レコードと保存法
レコードは日のあたる所へ
などへ出しておきますと、
すぐ反ります。反つたとき
は平たい板にのせて、夏の
日の日光に二三時間晒しそ
つと日陰に移しておくと、
自然なほります。またザア

常磐文藝

短歌

潮まき子

むらさきの千すじの
糸をあやにしてくぐりて
おかむ君が心を。

かの君のあゝかのひさみ
なかりせばかばかりなや
むわれはあらじに。

山莊戀慕

(追憶篇) 五郎

『死ぬ薬いま手にとりてあ
ふぎなば物語りめくわれに
やあらぬ』

『おもふ時總身ふるへて今
も尙悪性戀をきらめもせ
ず』

『左様ならふるふまぶたに
涙してわかれ去る戀この悪
性戀』

『山莊の夜の暗さに美しふ
吾れを抱きし明眸の人』

『秘めて持つ女の性の一つ
にも敷ふできかや君が涙を
『おおらかに入思入日の沈
む時われ山莊を訪るる時
『ふと見れば心戦く明眸に
どらばれし子もあはれなら
ずや』

ザアいふやうになつたのは
復活油(レコード油)といふ
油をあまり毛羽たない布
で塗りつけ、よく拭きどつ
ておくことなほります。それ
からレコードは火の傍など
も禁物です。次にザアイ
オリンの保存法をお知らせ
します。ザアイオリンは濕
氣と日光に直接あてること

株式磐越銀行

改稱第拾壹回決算公告

貸借対照表

大正拾貳年下半期

負債之部

資本金 八五〇,〇〇〇
諸積立金 四〇〇,〇〇〇
諸預り金 四三,七九七
他店預及借 三,七三三
未拂利息及 一〇,二七四
第二種所得税 三三,四八〇
未拂割賦金 三三,三三〇
当期純益金 三〇,八六九
合 計 一,四七〇,〇〇〇

資産之部

拂込未済 六四,五〇〇
資本金 六九,五〇〇
諸貸付金 九三,五〇〇
割手及荷手 九三,五〇〇
他店へ貸及預 三,八八〇
所有物勘定 三,〇〇〇
奥羽銀行同 三,〇〇〇
盟會基本金 二五〇,〇〇〇
現金有高 一七,三六九
合 計 一,四七〇,〇〇〇

一 金貳萬六千九百九拾九錢也

内金貳千圓也 諸積立金

金八百四拾八圓五拾九錢也

金壹萬壹千四拾七圓五拾錢

也(年九分)株主配當

金六千五百圓也後期繰越金

右之通り候也

大正十三年一月

株式磐越銀行

専務取締役 中野甲藏

頭取

が大禁物です。雨季には大
切のザアイオリンは決して
取り出してはいけません。
しまつておくときは、糸を
外して絹の布でしつかり包
み、風呂敷でその上をもう
一つ包んでからサツクに入
れておきます。これも常に
使ふことが、一つのいゝ保
存法です。

製材機械、人魚印丸鋸

自動注油メタル、プリーリー 在庫
ゴムベルト、バラタベルト

平町月見町

佐藤鐵工所

電話二六二番

外科………泌尿科
皮膚病 梅毒科
入院 隨意
阿部醫院
平町字新川町
電話五六七番

株式買賣中値
左記の値段は本日の標準値に付御
用の節は御問合願候
銘柄 拂込 時價
磐城銀行 五〇〇 四
平銀行 五〇〇 六九八〇
磐越銀行 一一五 一〇五
磐城實業 三〇〇 二八五
田村實業 一一五 一二五
四倉銀行 一七五 一七〇
農工銀行 二〇〇 二六〇
同 新 一五〇 二〇〇
同 新 五〇〇 五四〇
百七銀行 一五〇 一五五
七七銀行 一一五 九五
郡山電氣 五〇〇 四〇〇
同 新 二五〇 一八七
只見川電 一一五 六〇
植田水電 一一五 一五三
好問水電 一一五 一三五
磐城建物 一一五 五五
磐城製菓 二〇〇 六〇
平信託 五〇〇 三五〇
磐城勸業 一一五 一三五
植田物産 三〇〇 二八〇
平製水 二五〇 二七〇
好問鐵道 五〇〇 三五〇
入山新 三二五 一七〇
小田炭礦 二五〇 一〇〇
磐城炭礦 五〇〇 四三〇
同 新 二二五 一九〇
磐城セメント 五〇〇 八〇〇
同 新 一七五 三三〇
平運送 一一五 八〇
賣買取切機敏に御取扱申候間
多少に不拘御用命願候

新革大内館

戦争餘聞 血染の聯隊旗 (全七卷)
喜劇 ソフ井の苦痛 (全三卷)
新時代劇 祇園鳥邊山心中

帝 國 館
電話 五五五番

粹で上品な下駄を

御求めの際は

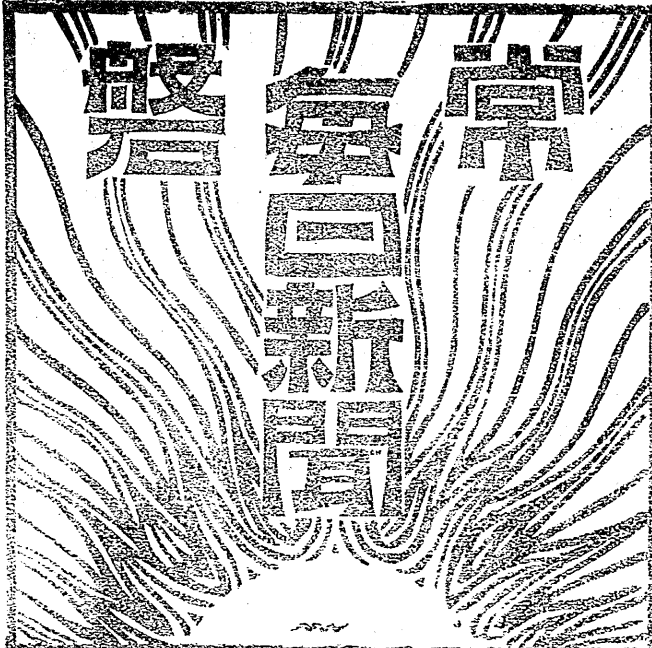
是非

平町二丁目(電話一五六番)

三井ハキモノ店

丸登株式会社

川添房二郎



刊夕日二十月二

定 一部金貳錢 廣 五錢 十二行 日曜大祭 福島縣石城郡平町田町廿六番地
一ヶ月三錢 告 五錢 一行 刊 日 印刷所 一〇活版所

發行兼編輯人 川崎文治 福島縣石城郡平町字長柳町卅五番地
印刷人 發行所 常磐毎日新聞社

本紙の一進展

社長 川崎文治

今日の本紙を御覧になつて何處さなく感じのよい整つた紙面である事に気づかれたと思ふ。夫れは本紙の印刷工場を變へた爲めである。従來本紙は磐城新聞社の工場で刷つて居たのであるが、今日から一〇活版所に移した。磐城新聞社の工場は本紙よりも紙幅の大きな盤新を印刷して居たのであるから更らに本紙を印刷しなければならぬ事は工場能率の關係から極めて無理な注文であつた、而し同社の運沼、柏木兩兄は僕の

日刊紙を健全に生い立たしむべく、あらゆる犠牲を擧げて其印刷の依頼に應じたのである、然かも『若し工場能率に故障の生じた時には盤新は休刊しても常盤だけは必ず印刷する』と云ふ程迄の誠意を示して呉れた、僕は幾度か兩君の熱誠に感激したか知れない、否將來とても僕の感謝の念に變りはない筈である、いま本紙は本紙のうぶ聲を擧げた思ひ出の多い古巢にさよならを告げて此處に移つた而しそこには本紙の一躍進を示す何物かがなければならぬ。

優秀な手腕の職工を有して居る事に依つて知られて居る、本紙は今後その恵まれた零園氣の中に手足を伸ばそうとするのである、喜び之れに過ぎたるはない、今迄本紙が求めようとして得られなかつた紙面の精彩は豊かにこれを發揚する事が出来る、讀者諸君の御満足を得るに充分な本紙が今迄より以上速かに諸君の家を訪れると思ふ、右は進展の一階程を示した意味に於て謹んで御報告申すのである而して今後一層社會の公器としての使命を果す上に華々しき飛躍を續けるのであらう事を諸君に契ふのである

勤王の鮮血を以つて 主君の墓前を染めた

泉藩士松井箇氏贈位……

山崎與三郎氏が推賞して語る

御慶事を記念し昨日全國の叙位叙勳者が發表された、本縣では舊磐城泉藩士故松井秀箇氏、安積郡山故阿部茂兵衛、喜多方町故爪生いわ女史其他一名で四氏共從五位を贈られたが故松井秀箇氏は『瓢や瓢や我れ汝を愛す』と常に酒瓢を携帶する事を忘れない本郡泉村醬油醸造家松井清水翁の嚴父である、平役場で今日其話が出た時に居合した山崎與三郎氏にどう云ふ人であつたかを聞くと『新川町若松醫師の夫人や水道部の松井技手は同氏の孫さ

光榮輝く

石城表彰者

中田氏や其他

昨日の佳辰に表彰された縣功勞者の内石城郡江名濱漁業組合長中田政吉氏は組合經營功勞者として前田農相より左記表彰状
多年漁業組合の經營に預り克く其任を盡し功勞努力なからず爾今益々奮勵努力以つて斯業に貢獻すべし茲に金一百圓を授與すを贈られ又四倉小學校長大塚三善氏は教育功勞者として金時計一個窪田村書記齋藤平左衛門氏は銀盃一個を授與されたが本郡内實業補習學校にして就學出席の状況佳良教授訓練の成績顯著

銃劍三百挺

陸軍省へ注文

磐城中等學校にては從來四年生以上のみ兵武體操の際銃及び劍を使用せしめて居たが軍備縮少の結果は國民皆兵主義を一層徹底せしめる必要が生じた事に鑑み三

年生にも銃劍を持たしめて軍事思想を鼓吹すべく陸軍省に銃劍三百挺の拂下を依頼した

軍事講話

星野大佐を聘し

石城郡にては第二師團參謀長星野大佐を聘し来る十五日小名濱町十六日植田町十七日四倉町にて軍事思想普及の無い洋服屋さんが

租税免除を路頭に叫ぶ

悲惨な民間の癡疾者を救へ

平郵便局北裏通りに小松正治と云ふ洋服屋さんがある此人は青年時代に左足を失つて松葉杖にすがらねばならぬ

平町から遙々議會へ請願運動

不自由な体を持つて居るが元氣は普通人以上にしが掛つて居る炭礦方面等に注文取りに行つた際其處に五六人の勞働者が集つて居るとスグ松葉杖を突ツ張つて穩健な社會主義の色で染め上げた勞資協同調頭等の大道演説を始める雄辯と云ふ程ではないが言々句々

眞性慾問題

男女責任感

花嫁候補の性的局部まで醫師の照に要する程度の勇氣は、常人はもとより、親兄弟又は花婿の方にあらざらふか、若し白日の許に其邊を精査することが忍ぶ可からずとせば、結局不徹底な暗中摸索となり、決して正しい診斷がつくものではない。此の意味に於て性的疾患の健康診斷なるものは云ふべくして行はれ難いものである、況んや現代の醫學の力では

及宣傳講話會を開催する由

大野村八莖

損害は八千圓

國有林を焼く

約三百五十町

石城郡大野村大字八莖地内國有林から去る六日午前一時頃發火し約三百五十町歩を焼き同日午後五時頃鎮火したが原因不明で損害約七八千圓である

牛乳業者協議

牛乳業者協議

平警察署管内牛乳搾取營業組合にては本日午後一時から同署樓上に協議會を開き産牛組合組織に關して協議し石田岡本兩縣技手の講演あつた

公人私人

中山雅司氏 (中山炭礦所長) 信州地方旅行中だが書を寄せて曰く「雪には富貴もわら屋も同じ眞白さ戀には智者も貧者も無くて愛憎の下半思ひのまゝの春に逢へば身も骨も溶けて流れて水に等さる云ふ」

一旦の検査では正鵠を期し難い場合が随分多いのであつて見れば、愈々以て困難と云ふ外はない、想ふに衛生結婚の完備は結婚に對する各自の責任感を振興する外に道はあるまい。斯く斯くの病氣を持つて居り、又は其の懸念のあるものは道徳上結婚の資格がないものであるといふことを各々自覺して呉れ、ば素し支ない筈である。既に結婚してしまつた後に憤慨させたり、謝罪させたり所罰したりして見た所で何の役にも立たぬ。

平町方部

聯合青年團總會

陽春二月を期して帝國館に

野澤少將の講演や武道試合

平町を中心とした一町十一ヶ村の本郡第三方面聯合青年團總會は來月十日午前九時半から帝國館に於て開催各團代表辯士の演説陸軍少將野澤少將の講演あつて武道試合及び徒歩競争を試み餘興として活動寫眞を映寫する由

青年團旗樹立

子歟倉社頭に

御慶事記念として平町青年

愛婦幹部會

資金募集協議

石城郡愛國婦人幹部會は本日午後一時から郡議事堂にて開會救濟資金募集に關す

る活動寫眞會を催す事に就いて協議した

十二日會の講話 平十三日會は十三日午後七時から平銀行樓上に於て開會、

磐中教諭近藤廣記氏の繪畫に就ての語に關し講演ある本郡農會の

事業と獎勵

役員會の決定

石城郡町村農會役員協議會は十日午前十時から郡議事堂にて開會されたが來年度の主なる事業及び獎勵は左の如く決した由

技術員設置、講習講話、町村採種圃設置、動力農

方針を決定

各幹部の協議

平町に一大グラウンドを作るべき計劃に關して本日午後七時から役場内に在郷軍人分會青年團消防組の各幹部集合協議し大體の方針を決定する由

信用組合總會 植田町

信用組合にては十一日總會を開いて尾形産業主事の講演があつたが平窪村同組合にては十三日午前九時から

平町人事

出生

▲久保町 當時北海道正川郡鈴木己之吉三男四郎
▲研町 高澤壽廣四女ひろ子
▲四丁目 小齋宗三郎四男宗司
▲立町 藤田與三郎五男信藏

同校小學校内に總會を開く由

▲帝國館の革新 帝國館は近來大入滿員の盛況を呈して居るので一層觀客に満足